

---

# 只今妄想実現中！

ぴろてい～@

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

只今妄想実現中！

### 【NZコード】

N6234Y

### 【作者名】

ぴろていーる@

### 【あらすじ】

どこにでも居てそうなサラリーマン。

小西裕之 38歳。

神様との取引で能力を得る事に成功。

この能力で異世界を謳歌する。・・・予定。

ハーレム化になるかはまだ考え中です。

戦闘は有りますが、なるべくグロくはしないつもりです。

今までには他の作者様の小説を読むだけだったのですが、自分でも執筆してみたくなり

チャレンジしてみようと思ふ執筆に至ります。

更新速度は遅いです。（想像しなければならないので…。）

誤字・脱字など有れば御指摘を宜しくお願い致します。

この小説に登場する武器・魔法等などは他の作者様とカブる点や違つ点も出てくるかとは

思いますが、鋭い突つ込みは作者のガラス細工のハートが持ちませんのでお手柔らかに

お願い致します。

その他励ましも宜しくお願い致します。

## この日の日常？

朝6時いつももの様に旦覚ましが鳴り響く。

その音で旦が覚める。

毎日毎日同じ時間に起きて通勤する。

顔を洗い、朝食を食べ、歯を磨き、着替えて、駅まで自転車で行く。  
うむ、毎度の事ながら口ボソトみたいやわ。

規則正しい生活は、健全な肉体・健全な精神を形成するとか聞いた  
事有るけど・・・。

ほんまかな・・・？

そんな事を思いつリビングに行くと、嫁が朝食の準備をしていた。

まだ子供達は起きてない。

子供は2人で4歳に2歳。

共に女の子である。

朝は子供の顔を見る事はない。

子供が起きる前に通勤やしね。

ぼーっとテレビを見ながらパンを食べる。

そろそろ歯磨いて、着替えるか・・。

通勤には1時間かかる。

結構電車通勤つて暇なんやわ。

そこで、iPodを買ってみた。

最初は御機嫌で音楽を聴いてたけど、それも1ヶ月で飽きてきた。

次は、iPodを聞きながら本を見る事にした。

これがなかなかいい感じや。

まあ電車で読むにはファンタジー小説は他人の目が痛いな・・・。

でも、関係ないね！（柴田恭平風）

高校時代から、かの有名なロードス 戦記を読みTRPGにはまり  
マジックザ

ギャザリング（でも、これはあんまはまらなかつた）をしたり、  
チオタク道を

闊歩してたと思つわ。

でも、ファンタジーオタクつて訳じやないで。

サバゲーしたり、シユーテインングゲーム（某ゾンビゲー）、趣味で  
抜刀（居合じゃないで）

習つたりしてるしな。

もしかして妄想を普通にして、ナイトビジョン買つたり、非常食・  
水の備蓄は

もううんの事防刃グローブ（手袋の事やで）買つたりしてた。

何の妄想かつて？

そりや世の中突然にリビングデットになつたら生き残る為にやん。

嫁には白い田で見られながら徐々に揃えてん。

さすがにおいづかい制やから、高額商品は買えませーん。

おっと、こんな説明してる間に降りる駅に着いたやん。

まあ誰に説明してるねんつて感じやけどな・・・。

自分のデスクの上有る書類を処理しながら考える・・・。

早く昼休憩にならへんかな〜・・・。

つて今来たばっかりやん〜つて突つ込みありがとつ。

基本ダメ社員です。はい。

でも不思議な事に役職付いてますんやわ・・・。

課長やねんな・・・。不思議やろ?

俺も不思議やわ。

上司の田中先生なんとかやつやろか?なんて想つたり、思わなかつたり。

つて思つてやろうって突っ込みありがと。

思つてます。

なんか不思議な事つて世の中いっぱいあるねんな。

我社の7不思議の一つやつと俺は思つ。

他の6つは何かつて?

聞きたい?

しゃーないな。

2つ目は今年42歳の経理のオールドミスが結婚。

一説によると処女だつたらしい。

3つ目は絶望的な禿げ社長に毛が生えた。

これはリゲンのおかげらしい。

4つ目は・・・まだ聞きたい?

まあ こんなしょうもない事の7不思議。

おひとい、密からメールや。

ふむふむ、今から来い?

そばれるし、行きますか。

俺「部長、 工業の部長様からメールが入り、至急打ち合せしたい事があり来て

ほしいとの事ですんで、車で今から向かいます。」

部長「おお、ほな部長こみゅじへいじこにて。」

しめしめ、これで大手を振つてそばれるわ。

そつそと用事済ませて帰寝しよ。

工業は隣の県にあるから、高速使わなあかんけど帰りのSAで  
毎寝できるねん。

## こつやの日常？

無事密との綿密な打ち合わせも終わり・・・

はい、嘘です。

ほほ適当に聞いてました。

つて途中の展開はいきなり飛ばしたけどこっやんな？

わたくして、もう飽やし何食べよかな？

男は黙つてうぶん！

男は関係ないって？

関係ないね（柴田恭平風・・・もう飽きた？）

ただのうぶん好きです。

いつもこの密の帰つ道にあるうぶん屋に寄つて食べるんがパターン  
その1。

ちなみに、その2は無いで。

うぶんを食べながら外の景色見てると、変なじいさんとくつと残  
念な感じのイケメン

兄ちゃんが俺の車の周りで話してるのが見えた。

車上荒し?

最近は年寄りもやつよるんやな・・・。

年金だけじゃ食えんのやうな・・・。

かわいわかつやけど、何かしたら即通報=御用になつてもいいな。

でも・・・。

何である2人の周辺だけもやもやした風景になつてゐるやろ。

気合入れた時のケンシロウやん。

あた!とか神谷あきらが言こやつた感じ。

あ・・・あのじこやん俺の車覗いて何かやつとるー。

俺「おばちゃんお金こじ置いとくでー!」

俺は勢い良く飛び出て2人の所に走つた。

俺「おいおいーじこやんーこくら年金少ないからつて車上荒しはあ  
かんやろー!」

車上荒しつて決めつけます。

車上荒しー「おひ。お主の物か。すまんの、珍しくて覗いてただけ

じゅわ。

俺「何が珍しいねん・・ほんま・・・まあ一応何かされてないか確認するから

待つときも。

車上荒し<sup>1</sup> 「ほひほひほひほひ。

俺「変なじつやんやな・・・」

車上荒し<sup>2</sup> 「おこオマハー口のあき方に氣をつけろー」

俺「何が口のあき方やーアホ！車上荒し様、少々お待ちひ下せこましつて言うんか！」

ほんまアホかボケ！

車上荒し<sup>2</sup> 「な・・・！」

ここ二つフルフル震えながら頭から湯気出そうな感じでイカリングや。サグン

イカリング めちゃも怒ってるって意味やで。

何かこいつの手の周辺歪んでる様に見えるんやけど・・氣のせいか？

車上荒し<sup>2</sup> は俺に手を翳し・・・

車上荒し<sup>2</sup> 「？？？！」

七時〇二分・・・七時〇二分・・・・。

こいつの非日常？

目が回る回る……。

本当に……。

まああれだ、ウルトラマンのオープニングのグルグル渦巻いて最後にウルトラマンって

出でてくるやつだ。……たしかそのはず……だよね？

しかも、視界に入る色がテンプレ的白色だから、余計に酔いそうなんやわ……。

俺「おえ……吐きやつ……。」

? ? 「吐くのは勘弁じゃな。」

俺「誰や？」

そつ言いながら声のする方を見よつとするが、未だに視界グルグルコースでよう

分らんわ……。

? ? 「 じょつがないやつじゃわい。」

そつ言われて体が何かに包まれるような感覚があった。

？？「もう大丈夫じやろ？」

俺「あ・・・ほんまや・・・。」

視界が急に開けた感じひつやつになつた。

俺「視界グルグルコースが嘘の様に視界クッキリクリンビューーー。」

つて俺アホやん。

改めて周りを見渡すと・・・・・。

白一色！

しかも・・・俺浮いてるやん・・・。

宇宙つて黒色やん？それが白になつた感じ。

俺「おわーなんじやー」りや（松田優作風）「

マジぢびつやうや。

人間つて地面の上で生活してるやん？それが急に中に浮いてたら  
どう思ひ？・

普通ぢびるやんね？つてか俺はぢびるー

俺「ぢないなつてるねんーまつ・・・・・・・・・。」

？？「そのまさかじやの。」

俺「俺の脚にバー＝ヤガ……。」

「？？」「そつつか……。違つち。」

俺「なつーまつーまつか……。」

「？？」「今度」そ、そつちじやな。」

俺「俺が飛行石持つてたなんて……。」

「？？」「またそつちか……。これこれ、ポケット探つてめ田てここん  
わ。」

俺「なつーまつまつか……。話が先に進まんからもつここじやな。  
「やんね。」

俺は突つ込まれた方を見たら車上荒しが浮かんでた。

俺「車上荒し?やん?」

車上荒しへ「……よつやく先に進めやつじやわい……。」

はあつてまつなよ。

俺「」

車上荒しへ「」まな煉獄じー。やじ

俺「マジ……。」

(――。。) ヒイイイイー(。。――)

車上荒し?の言つ事聞いてたらマジビリてきた・・・。

まさか俺が煉獄とは・・・。

まさか俺が昼飯代のおつりちゅうまかしてたからか?

会社のボールペンパクッてたからか?

はつーもしや! (。。。;) ヌオオ!?

もはやこれがバレてるにしか思えん・・・。

( "。。。; A アセアセ・・・

会社のPCからH口サイトに接続してウイルス感染した件だな・・・。

俺「観念したぜ・・・セニヨール。」

車上荒し?「セニヨール? 観念?」

俺「みなまで言わせる気か・・・。」

車上荒し?は俺を不思議な生き物を初めて見た様な目で見てる・・・。

視線が痛い・・・。

車上荒し? 「まあ煉獄は嘘じや。」

てへつて感じでこんな嘘言つなよ。

俺「な～んや～と～！マジ焦つたやんけ！」

そう言つと車上荒し？は手を大きく横に振つた。

この手の非日常？（後書き）

顔文字使い過ぎ？

「このままのまま？」

車上荒し？が手を大きく横に振る姿を見てた。

すると、急に田の前に地面が出現！しかも家も田の前に有る…

でも…。

この地面狭くね？

石畳の通路が有る…。

何か…界王様の家にそつくり…。

そつそつ、小さい球体の上に家とバブルス君が住んでる場所。

それそつくりなんやわ。

俺「車上荒し？何やつー？」

ちよつと時代劇風に言つてみた。

車上荒し？「神」

俺「髪？」

自称髪「神じ。せじ。」

俺「そつか…紙か…。」

自称紙「これこれ、髪だの紙だの使い分けるでない。」

うむ・・・テンプレ的な感じになつてきたのはいいが・・・。

気にはなつててん・・・小説の主人公達が行くを逝くと言われて、それを

認識してたりとかね。

俺も今試したけど紙だの髪だの言つて誤認識してるよつて見せてみたけど

しつかり漢字認識してるんやね。

不思議やわ。

俺「で、その神が俺を拉致してどうするつもりなん?」

神「慌てないんじやな。大抵は、叫んだり罵倒したり跪いたりはあるがの・・。」

以外だねつて顔しながら俺を見てるが、俺は伊達に社二病

（厨二病の進化系？社会人だし。）を患つてはないのだよ明智君。

俺「ふつ・・・俺を見縊るなよ!」

一旦流し眼、そして！カツと見開いて神を見る！

か・・完璧に決まつた！

神「キモイの。」

そして、崩れ落ちる俺・・・。

## こつもの非日常？

崩れ落ちる様を仄々とした目で見られても困るねんな。

何でここで突っ込み無いんかな・・・。

まあそれはいいとして。

俺「で、話を続けようじやないか。」

とりあえず、話は先に進めないとね。

神「うむ、やうじやの。お主はここに来る経緯は覚えてあるか？」

俺「もちのロンよー。」

あれ・・・？よく考えたら、車上荒し？に何かされてからの記憶な  
いわ・・・。

（・・・）アセアセ

神「じやろうな・・・。」

俺「えーっと・・・。車上荒し？に何かされてからの記憶が御座い  
ません。」

何処かの政治家の様な受け答えをしてみた。

何とか還元水とか言えればいいかな？

神「ふむ、じゃねえか。」

俺「で、で、車上荒し? まこづけ?」

神「聞きたいのか?」

いや・・・待てよ・・・」ソード闘いたらヤバそうな匂いがする。

好奇心はまんざをもくろーーーと書つた。

俺「聞きたいっすー！」

「めで、好奇心は勝てませぬ・・・。

神「簡単と言えば修行に出したんじや わー。」

修行つて・・・界王様か? 」の方は・・・  
とつあえずバブルス君はどーぞ? ~

神「何をキョロキョロおむる?」

俺「いや・・・バブルス君は居ないのかな? つて・・・

神「ああ・・・今置い出し中じや。」

おおーいるとかい!

神「嘘じやがの。」

俺「・・・。」

嘘かい！

神「猿がウホウホ言いながら歩き廻つたらキモイじゃ。」

バブルス君「・・・。」

神「まあそれはいいとしてじゃ、あやつは今地獄で修行させておつての。」

なぬ？！地獄？！

よもやに地獄のキーワードが飛び出してくるとは……。

神「まあ現界でお主をミンチに変えたから。」

そうか・・・それは大変・・・。

？？？？

俺ミンチ？

ハンバーグ？

合挽き？

M a d e i n o r e ?

それ旨いの？

俺「普通なら恐れあおく誠に大変申し上げ難いキーワードが炸裂したのですが・・・？」

神「怒りで我を忘れ、お主をハシチにしてもうつたのじやて。」

せりつと言ひやがつた・・・。

# 神 一 そ う 喜 ぶ な

俺のどこを見れば喜んでる？それこそ奇奇怪怪じゃ！

俺「おうおうおうおうーおどどづづーめんづづーー」ないな事になつて  
どないケシ拭くんじやーー。」「

ここ怒つていいやんね？神なんて関係ないやんね？

神「そこで提案じゃが、お主の希望する庄司送り出すのせいでござりや？」

俺「おうー・おうー・おう？」

(。、。)ん?

何かとてもテンプレ的魅惑的なワードが・・・。

俺「まあ俺も小大人（ことなつて読んで、大人になりきれない人）

だ、話は聞こへせん。」

俺「ああ話せ、今すぐ話せー。」

神「まあ今話かたことでもひたとい話すのかひいて。」

## こつせの非口論？

神「まづは、お主に謝罪せねばならぬな。我が子がお主にした事は理に反する」としゃべる。

俺「まあ・・神に謝られるのは初めての経験やけど、あんたがした事やないから許したるわ。」

面と向かって言われると恥縮致します。

神「では、説明するが。まづお主が車上荒し?と言つてたのはウリエルと申す名での、お主の世界での少しづな名が知れてるとは思つぞ。」

ウリエル?

ムニエルなら知つてゐるナビ・・。

俺「うむ、その様な高位の物であつたか。」

時代劇風に展開してみよう。

神「ウリエルは可愛い子なんじやが、少々堅いところがあつての。お主の言葉使いに我を忘れてもうたんじやわ。」

ふむふむ、親バカ?

俺「でも、行いは理に反すると言つておじやるな?」

神「うむ、やうなのじゅ。」

おじやるつて言つてもつたけど、華麗にスル パスされた。

神「そこで、あやつの為に修行に出したんじゅ。まあ地獄に行つたと言つても、墮天した訳ではないでの、まあ1000年もすれば戻してやるつと思うのじゅが、お主はいこかの？」

1000年ですか・・・？

千年万年百万年リボンの騎士は一億年つて言つしな、まあ大丈夫やろ。

俺「是非も無し。」

キリッと決めたぜ！

( 、――、 ) フツ

神「そう言つてくれて助かるの。まあ闇ちりやんに頼んだし大丈夫じやううと思つが心配での。」

ん？闇ちりやん？

俺「闇ちりやん？」

神「ああ、闇魔大王じゅ。やつとは因縁友達での。闇ちりやん神ちりやんの仲じゅ。」

えらいフランクやの～・・。

天界と地獄界との境は無いんかい。

神「お主の命を奪つた事に対してのその後じゃが、お主の魂を3／4もろもろ蘇生させておいた。」

そんな簡単にできるん?

俺「魂の3／4で大丈夫なん?」

神「大丈夫じゃ。残りの1／4は神界のマナを入れておいたからの。」

マナ??なんじゃ?魔力的なもんか?

神「理解しづらいようじやから、噛み碎いてはなすと、人の魂は水風船の様なもんでの、お主の魂を3／4入れても膨らみきれんのじや。そこでワシが謝罪も込めて、ちーっとばかし神界のマナをちよろまかして入れたんじやよ。そつすればお主の水風船はパンパンじや。」

俺「よく分らんけど、その神界のマナ入れて交わるもんなん?」

神「普通に入れたら破裂じや。」

えつ・・・?破裂?

(一一。。)ヒィイイ!

俺「破裂したらどうなるん?」

恐る恐る聞いてみた。

神「天界のも地獄にも行けん、存在 자체がリセットじや。」

（（（（（（（；。）））））））ガクガクブルブルガタガタブルブル

神「でも、入れるのがワシじやから秘伝のレシピで簡単作成じや。」

。 + . ( ? ? ? ? ) 。 + . わあ レシピ最高！

神「そうして、もう一人のお主は現界で、普段通りの生活を営んでおる。まあ少々問題は有るが・・・」

（ \* 、 \* 、 \* ） ? 問題？

俺「それって非常にマズイ事態？」

神「いやいや、マズくはないんじやが神界のマナを入れた事でお主に人として能力が上がつてもうての、カリスマ性・頭脳・精神力・体力共に人の限界を超えたんじや。」

（ 、 、 ） ヾ なんだって？

加納姉妹真っ青なカリスマ？

コナン君もガクブル頭脳明晰？

片道切符握り締めた特攻隊に志願できる様な精神力？

ラオウ的体力？

「これって人外じゃね？」

神「お主の嫁はお主を疑ってるみたいじゃな。」

まああの嫁なら当然やな・・・。

俺「まあ俺がいなくなつて子供が悲しむ姿みたくないしな。ありがとう。」

ちよつとセンチメンタルジャーニー 。 。 。 。 (\*ノ、\* )  
。 。 。 シクシク

神「でじや、お主の魂は通常の1／4しか無いんじやが、ワシがマナを入れといたでな。」

つてことは、もう一人の俺以上のパワーを持つ俺がいるわけやね。

ウリイリイ  
！

ジョジョってみました。

俺「それってもう人の俺よりパワーアップ？」

一応確認しないとね。

神「そうなるの。」

やつぱ素敵なパワーGEーダゼー！

俺「して、その私のスペックはいかほじで？」

神「それは後のお楽しみじや。」

( ? ? ? ? ) いや～ん。おあずけですか？

そんな性癖いじりこせんのじとよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6234y/>

---

只今妄想実現中！

2011年11月23日14時56分発行